

心 動 不 動

令和 3 年 9 月
第 6 4 号
発行 普 照 院

緊急事態宣言がお寺のある神戸市に発令（8月20日）されてから、一週間ほどが経ちました。お陰様で、その影響は今の所お寺や寺族には及んでいません。しかし昨年からの仏事への影響は宗教界全体では大きく、様々なことがこのコロナ禍で変化してきています。皆さんも、それは大いに感じてきているのではないのでしょうか。特に『お葬式』に関する影響は大きく、またその変化に戸惑っておられる方も多いと思います。今回はその「コロナ禍でのお葬式（葬送儀式）」について少し考えてみたいと思います。

・葬儀社から見たコロナ禍でのお葬式

我が国の死亡者数は年間約 140 万人。進む高齢化社会を反映し、年々増加傾向にあります。しかし葬儀社が忙しくなっていると言われるとそうでもなく、当寺院の本堂葬儀でお世話になっていた業者さんも経営者が交代され、その理由は明らかにお葬式の縮小・簡略化による収入減です。

・喪主から見たコロナ禍でのお葬式

親のお葬式を執り行いたいのだが、それを行うことで感染者を増やしてしまっただけは申し訳がない。特に高齢を押して遠方より足を運んでくださる方であれば、なおさらその危険リスクは高まります。

上記の理由で、「住職と喪主家族での少人数のお葬式」という形も珍しいものではなくなってきました。そのような中で、

- 僧侶と家族だけなので、通夜を省略したい（一日葬）
- 式途中で、初七日や四十九日法要をお勤めして欲しい。

というご意見も出てくるようになりました。

・僧侶から見たコロナ禍でのお葬式

まずこのコロナ禍で『葬儀縮小・簡略化』と言われていますが、住職自身はコロナ禍になってからの葬式でお経をお唱えする時間や量などを『縮小』したり『簡略化』したことはございません。葬儀社から見て参列者が少ないからそう言うのであって、お葬式は正式名称『葬送儀式』という「宗教儀式」なのですから、簡素化や省略などはできません。

ただ、喪主家がおっしゃるような「通夜や式後の初七日法要、そして一か月後に行われる四十九日法要で人が集まるリスクを少しでも避ける。」というご意向も分からないでもありません。ちなみにこれは住職の個人的見解ですが、『お通夜（通夜式）』というのは先ほどの葬式のような「儀式」ではなく、あくまでも亡くなった方とご親族の最後の夜を偲ぶ個人的意味合いが強いものです。

ただしそのお通夜の由来は、お釈迦様がお亡くなり（涅槃）になった夜に生きとし生けるものの全てがその死を偲ぶために集まったことから、釈迦の弟子（仏教徒）として亡くなった

故人をお釈迦様と同じように偲ぶために行うようになったものであり、また初七日や四十九日の法要も亡くなった方がこの現世からあの世（極楽浄土）へ旅立つために必要な通過儀礼です。そのため、それらを理解された上で喪主家の皆さんが納得されるのであれば、住職はお通夜の省略、及び初七日や四十九日の法要をお葬式の式でお勤めすることは否定致しません。（なおその場合でも、四十九日の法要は実際には決められた日にお寺で住職が単独で正式にお勤めすることになります。）

このようにお葬式を行うにあたって、いきなり葬儀社にアドバイスを求める（葬儀社は時間・スケジュールや費用を優先します）よりも、是非喪主家の皆さんがどのようなお葬式にしたいのかということ、住職に直接ご相談して欲しいと思います。特にこのコロナ禍でこれまでのお葬式マナーや風習といったものが通用しなくなり、また参列者への配慮なども大きく変わってきている現状を、皆さんが急な不幸の際に判断することは難しいと思います。「こんなことを言うとお寺さんに怒られるのでは…」と思わず、気軽にこのコロナ禍の時代であればこそまずは住職にご相談下さい。

・参列者から見たコロナ禍でのお葬式

「最愛のご親族が、お世話になった先輩・親友が亡くなった。是非、お葬式に出てお別れをしたい。」というお気持ちは当然だと思います。しかしこのコロナ禍で一番辛いのは、このお葬式に参列できない、呼ばれなかったという状況で、特に兄弟であってもそれが叶わないということがありえるのがもっとも恐ろしい所です。

ここでこれは喪主家が気を付けなければいけない点ですが、参列者を縮小した場合は後日お手紙などでその不義理をお詫びしなければなりません。語弊があるかもしれませんが、普通にお葬式を行った方が実はよほど楽なのです。

このように喪主家も、参列できなかった方もどちらも辛いコロナ禍でのお葬式ですが、そういった状況・時代ですので、参列ができないことで喪主家を責めるようなことだけは控えていただければと思います。

〔編集後記〕今回は特にコロナ禍でのお葬式について書きましたが、コロナ禍における法事に関しても様々なご意見があります。私はいつも言ってますが、家族が100家あれば100通りの供養があると思っています。是非、なんでも思ったことは住職にご相談いただければと思います。ところで今年の夏は本当に雨が多かったですね。お盆参りも雨のせいで私がバイクではなく車だったために時間的余裕の無い中、お参り先のお家では駐車場の手配やその他色々配慮いただきました。お陰様で各家予定通りにお参りできました。また秋彼岸の際にも宜しく願い致します。 合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話 078-671-1787 ファックス 078-330-1187

ホームページ <http://fusyojin.com/>



普照院

検索



←左のバーコードをスマホの写真モードでのぞきこんでいただくと、
普照院のホームページにアクセスできます。

